



泰弘さんが今も続ける1日5000歩の挑戦。「私やったら、ようできん。ええ根性してますわ」と一男さんとまさ子さん。上本さん一家はこれからも、笑って勝って歩み続ける

「雪も差さずに出かける息子の目に」。一男さんとまさ子さんの雪には、朝もしくは夕方の雪の日も、泰弘さんは「1日5000歩を目標に歩いた。挑戦であり、格闘であった。息子に負けまい、一人男さんとまさ子さんは、まことに挑戦に打って出る。それは、マジックショーだった。」「なんでマジックやねん」と頭をボリボリ。実は、「ミスター・ジョン・ワホン」（日本）という名で、市内の介護施設や老人ホームを訪問ボランティアになり、マジックを披露している。

いかにも「かうびやかな衣装」を身にまとった、いかにもハートが出来そうな箱からハートが出て来る。時に、人間も判断してみせる。場内がどうと沸く。

30分のショーが終わると、度はまさ子さん「芸名・藤あやの」が、いかにも「きらびやかな赤い黒の衣装でマイクを握り、「流恋草」「大阪阪ブンゾイ」といった贅沢のオーバレード。喉を開かせる。終了後に「観客から一来週も来てね」と、やんやんやの大歓声。宿命の湖底で、腹を笑って何かが笑いの力は、常勝勇

## 訪問ボランティアのマジックショーが人気



「麦畠」を歌う時には、夫婦で衣装をチェック。観客も声を合わせて大盛り上がり

西の「十六番」。一人のために火をともせば、我が家も生きらるがいい。（新2-1-6・全156段）  
師弟の世界（感傷）  
はいらない。  
親子の戦いは3年、5年、7年、10年、20年。敗北した過去は、丸で忘れない。  
私弘の「みじめ」も動かなかつたその「未だ」、明日へ向かって確かに詠み出している。左手足がかないまだまだが、一人で洋服のボタンを留め、ジムにだ運びした。 （4月3日付）

試験の真っただ中で、誰かの笑顔を引き出してきた上本さん。夫帰。『それが私らやから。運命だつて笑い飛ばす。常々の勝利宣言。家族が春を

**息子を襲った2度の苦難に負けず**

【京都市北区】おかしくて、悲しくて。つらくて、たましくて。大阪のド根性を、この夫婦に見えた。夫の上本一男さん(73)=副部長=と、妻のまさ子さん(75)=地区副女性部長。「楽しいほんまに楽しい。循環いっぱいの人生です」カラッと話すが、辛酸は群を抜いている。

# 宿命 笑い飛ばしまつせ



## 私たちがつなぐもの

それは、だれかの关心

だれかの笑顔、

だれかの願いだから、

えの日常を、ちゃんと

ひとりひとりが、未来を灯す。

**KANDENKO**